



兵庫教育大学の 地域貢献

今日の大学には本務として、立地する地域に貢献することが求められています。兵庫教育大学は、ミッションの5番目に「教育と研究の成果を地域や広く国内外に発信」と明記し、地域貢献はその使命であることを宣言しています。また、ビジョンでは、教師教育の実践・研究の全国拠点（ナショナルセンター）並びに地域拠点（リージョナルセンター）となることを目指すとしています。

地域貢献活動には大学教員が個人的に依頼されて行うものと、大学が組織的に自治体等と連携して行うものがありますが、ここでは組織的な貢献活動を取り上げます。本学が連携協力協定を結んでいる自治体は、兵庫県と大阪府の25市町に及びます。教師教育の専門大学ですので、この分野の研究・実践の成果と豊富な人材（大学教員）を生かした多様な事業が展開されています。

兵庫県や神戸市、地元加東市等の市町における教職員研修、子育て支援講座、理科・科学のサイエンス祭、小・中学校の授業改善支援、心の教育総合センターや発達支援センターの運営協力などです。本学単独主催の教職員研修講座や、学校等からの依頼を受けて大学教員を派遣するスクールパートナーシップ事業も、かなり以前から行っています。広く一般市民を対象とした単独主催の公開講座、北播磨5市1町との連携講座も開催しています。

学生によるスクールサポーターなどの学校ボランティアや、各種団体の催しへの部活動単位（よさこい部や吹奏楽部など）での派遣も本学の貴重な地域貢献活動です。多くの派遣依頼があり、好評です。

このような地域貢献活動は、本学に多くのメリットをもたらしています。まずいえることは、本号開学35周年特集の井戸兵庫県知事、安田加東市長、中杉姫路市教育委員会教育長のご意見にありますように、地域・自治体における本学のイメージと認知度、そして存在意義が格段に高まったことです。学校、教育委員会、自治体関係者からの本学への有用性認識と期待度が向上することにより、新たな連携事業や委託研究が生まれ、それは本学の外部資金獲得に繋がった場合もあります。

何よりも、学生ではない多様な成人や子どもたちが対象であるために、大学教員の教育者としての資質力量を高める効果をもたらします。それは大学における教育・研究や学生指導に還元されます。地域貢献活動はFDの機会でもあるわけです。学生は地域の住民や子どもたちとの触れ合いにより、コミュニケーション能力や社会性を培うことができるでしょう。

他方で、地域貢献活動が増えたために、大学教員の多忙化と事務量の増大を招いている面があります。本学が行うべき事業の基準と範囲を明確化し、量的に拡大した活動の整理・精選を進めているところです。これまでの経験を生かし、地域の環境やニーズの変化に対応しながら、地域と大学双方にとって有意義な貢献活動を今後もつくりていきます。

かじさつや
学長 加治佐哲也